

放 火 実 態 調 査 表

NO _____ , 発生日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分 () 天候 (_____)

発生場所 _____ 区 _____ 町(通り) _____ 丁目

火災種別 建物 林野 車両 その他 _____ 損害額 _____ 千円

発見者 (NO _____ , _____) , 媒体 (NO _____ , _____) 通報者 (NO _____ , _____)

初期消火者 (NO _____ , _____) , 消火器具 (NO _____ , _____) , 有効無効 (NO _____ , _____)

1. 地域の状況

駅からの直線距離 (_____)

	1 半径 500m未満	3 半径 1km以上 3km未満	
	2 半径 500m以上 1km未満	4 半径 3km以上	

交番所若しくは、消防署所からの直線距離 (_____ m)

コンビニ等人的集まる場所からの距離 (コンビニ, その他 (_____), ない) (_____ m)

幹線道路からの距離 (_____)

	1 50m未満	4 200m~300m未満	
	2 50m~100m未満	5 300m以上	
	3 100m~200m未満		

周辺道路の利用形態 (_____)

	1 地区の住民のみ利用する道路	2 主に地区の住人が利用する道路	
	3 どちらともいえない	4 不特定の利用がややある道路	
	5 不特定多数の利用がある道路		

周辺建物からの見通し (_____)

	1 周辺建物がない, または建物から監視される可能性が全くない	2 建物から監視される可能性があまりない	
	3 どちらともいえない	4 監視される可能性がある	

直近道路から見通し (_____)

	1 全く見えない死角の空間	2 見えにくいやや死角の空間	
	3 どちらともいえない	4 監視される可能性がある	

前面道路の幅員 (_____ m)

前面道路の利用形態 (_____)

	1 地区の住民のみ利用する道路	2 主に地区の住人が利用する道路	
	3 どちらともいえない	4 不特定の利用がややある道路	
	5 不特定多数の利用がある道路		

夜間の路上駐車が多い (多い 少ない)

歩道の有無 (有り なし)

出火場所を街灯が照らしているか (いる いない)

防災コミュニティ：結成状況 ()

子供 110 番などのように、駆け込めるような家があるか (ある ない)

2. 建物

(1) 対象物の用途 (1 一般住宅 3 併用住宅 5 駐輪場 7 敷地内物件 9 空家
2 共同住宅 4 産業用途建物 6 倉庫 8 ガミッシュン)

- (2) 業 態 (NO ,) (9) へいの構造 (ブロック, フェンス, 生垣, その他 ())
(3) 出火箇所 (NO ,) (10) 建物内の施錠状況 (ある なし)
(4) 着火物 (NO ,) (11) 建物内にカメラがあるか
(5) 敷地内の施錠状況 (ある なし) (12) セキュリティ (ある なし)
(6) 敷地内にカメラがあるか (ある なし) (13) 発生階 (階)
(7) 街灯・門灯・照明灯があるか (ある なし) (14) 出火部位が目隠, 塀等で死角になっているか
(8) へいの高さ (ある m, なし) (いる m, いない)
(15) 無人になる時間帯 (~)

3. 車両

- (1) 種別 (自動車 自動2輪車 原動機付き自転車)
(2) 出火箇所 (NO ,)
(3) 着火物 (NO ,)
(4) へいの高さ (ある m, なし)
(5) へいの構造 (ブロック, フェンス, 生垣, その他 ())
(6) 出火部位が目隠, 塀等で死角になっているか (いる m, いない)
(7) 出火場所 (一般駐車場 路上)

4. その他

- (1) 出火箇所 (NO ,)
(2) 着火物 (NO ,)
(3) へいの高さ (ある m, なし)
(4) へいの構造 (ブロック, フェンス, 生垣, その他 ())
(5) 出火部位が目隠, 塀等で死角になっているか (いる m, いない)

5. 現在の状況

掲示板がよく管理されているか (1 週間以内の予定が掲示されている 古いものが貼ってあったり
荒れている。)

地域内に商業用ポスター, 看板が多く貼られているか (貼られている いない)

地域での防火, 防犯活動をおこなっているかどうか (やっている (), やっていない)

空き地などが管理されているか (管理されている いない)

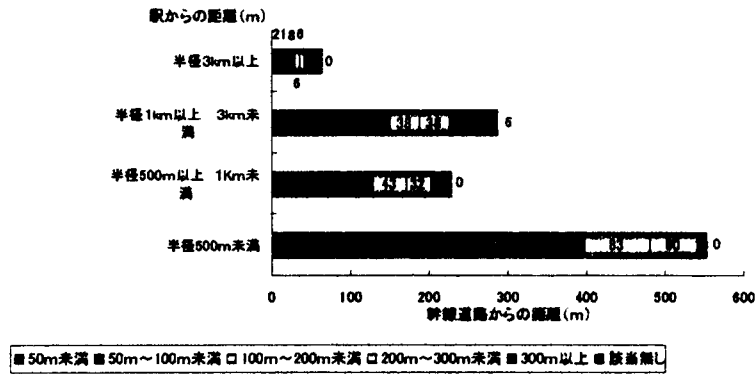
ごみが収集日以外にも出されているか (いる いない 不明)

地域に消火器が設置されているかどうか (いる いない 不明)

地域の行事は定期的にあるか (ある ない)

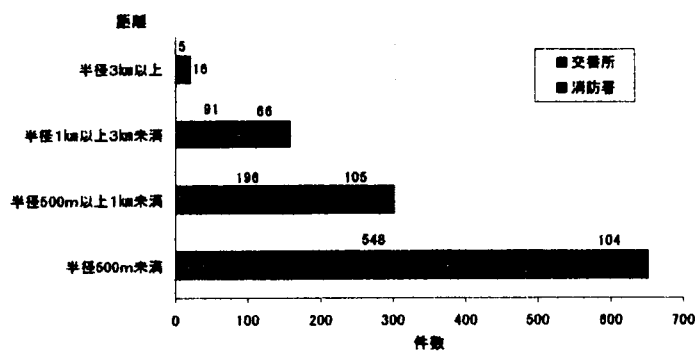
(2) 調査結果

駅及び幹線道路からの距離



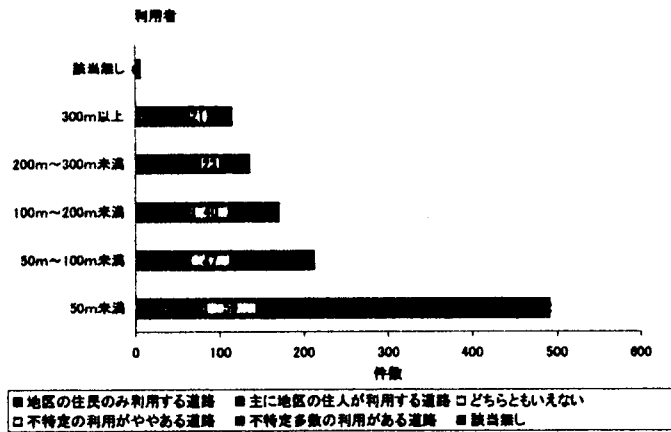
- ・駅からの距離は、半径500m未満が最も多く全体の52%である。
- ・幹線道路からの距離は100m未満が62%である。
- ・駅からの距離が半径500m未満の場合、幹線道路からの距離が50m未満が53%と駅から近いほど 幹線道路からも近く、駅から離れるほど幹線道路からの距離も長くなる傾向がある。

消防署所、交番所からの距離



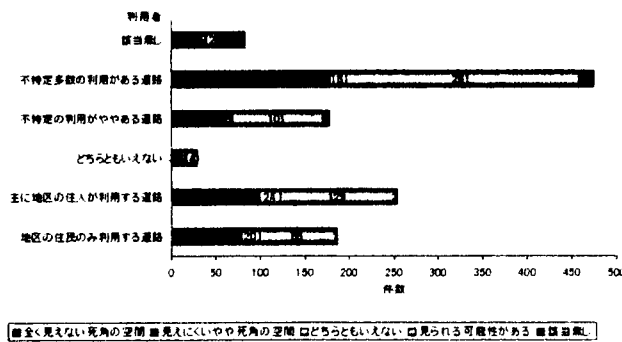
- ・交番所・消防署所からの距離では、半径500m未満が58%を占め、半径1km未満を含めると全体の84%となり、大半が消防署所・交番所からの1km未満の地域で発生している。
- ・放火犯については、交番所・消防署所は警戒心の決め手になっていない。

幹線道路からの距離と周辺道路の利用者



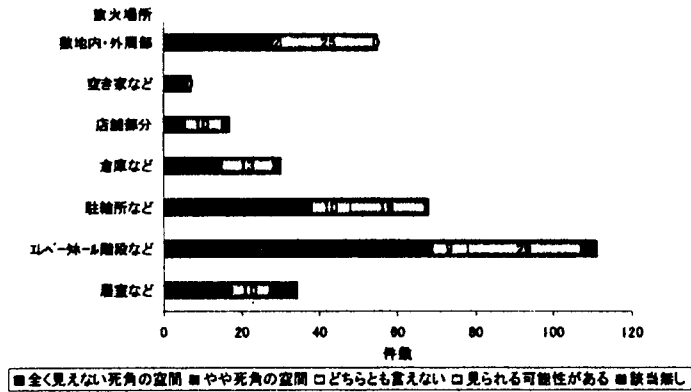
・放火発生場所が幹線道路から50m未満の場合、周辺道路の利用状況は、不特定の利用者が あり、ややあるが83%となっており、50~100mでは70%となっている。幹線道路から遠ざかるほど、不特定の利用者が減り、地域の住民のみの利用が増えていく傾向にある。このことは、匿名性が高い場所での放火の発生率が高いことを裏付けている。

周辺道路から放火場所の監視性



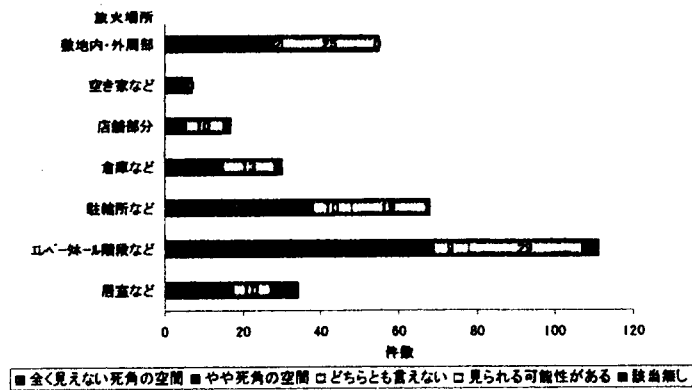
・周辺道路から放火場所の監視性は、不特定多数の利用がある道路では、55%が 周辺道路から見られる可能性のある場所で発生している。地域の住民の利用が多い道路においても49%が周辺道路から見られる可能性のある場所で発生している。
 ・死角の空間・やや死角の空間で発生した火災は、全体の40%となっており、見られる可能性のある空間で53%が発生している。放火は、大半が市民の監視性が弱まる夜間に発生していることもあり、道路の利用状況に関わらず周辺道路から見られる可能性のある場所で多く発生している。

建物火災における放火場所と直近道路からの監視性



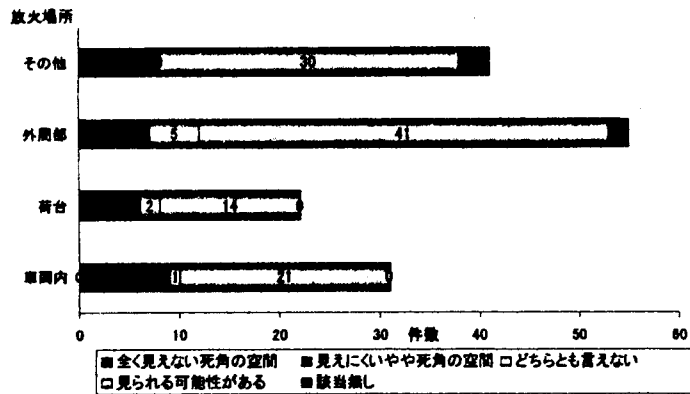
・建物で発生した放火においては半数以上が直近道路から全く見えない・見えにくいやや死角の空間で発生しており、監視 カメラやセンサーライトなどの防犯機器の設置を考える必要がある。

建物火災における放火場所と直近建物からの監視性



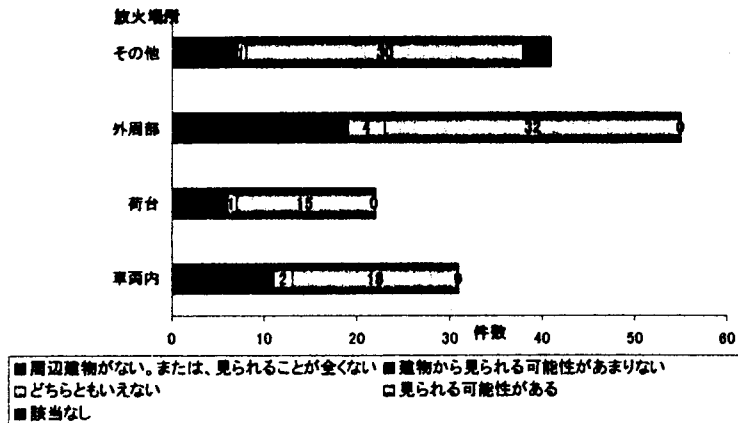
・建物火災の特徴として、直近建物からの監視状況とはあまり関係なく発生しており、死角が多いことが伺える。従って、建物内部における監視性を高める必要がある。

車両火災の放火場所と直近道路からの監視性



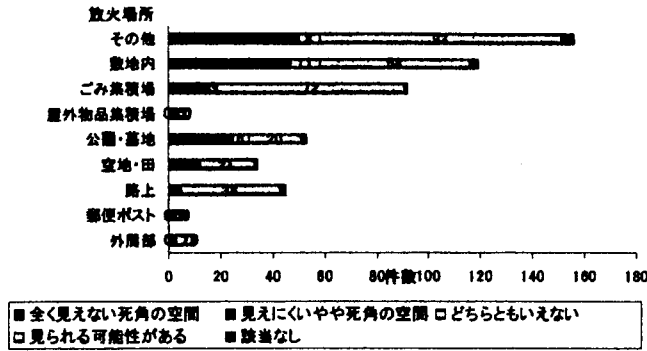
車両火災においては、約80%が直近道路から見られる場所で発生しているが、これは道路上での駐車、駐輪や、あるいは駐車場、駐輪場が道路に面していることによる。

車両火災の放火場所と直近建物からの監視性

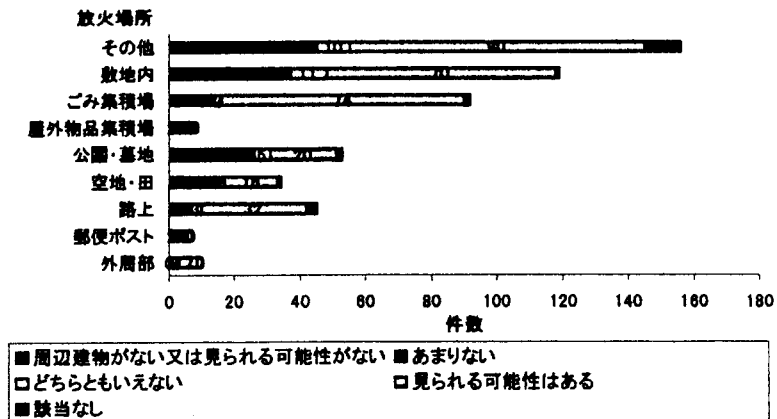


・車両火災においても、建物火災と同様に周辺建物から見える場所で約70%が発生しているが、これは、住民が放火されている場所を常時監視しているわけではない結果である。

その他火災の放火場所と直近道路からの監視性

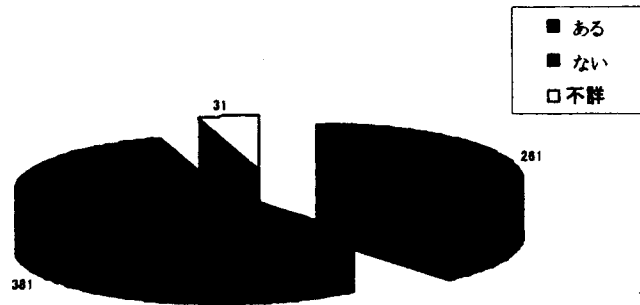


その他火災の放火場所と直近建物からの監視性



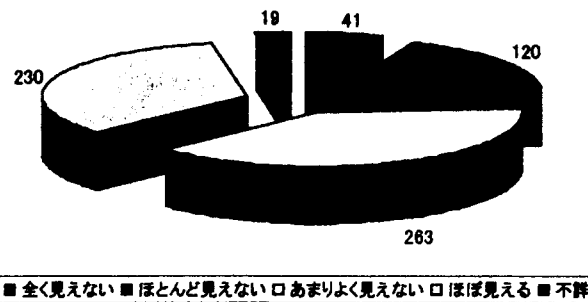
・その他火災において直近道路からの監視性をみると、60%~70%が見られる場所で発生している。
 また、周辺建物からの監視性でも同様であり、やはり60%~70%が見られる場所で発生している。

放火場所と街灯(車両火災、その他火災)



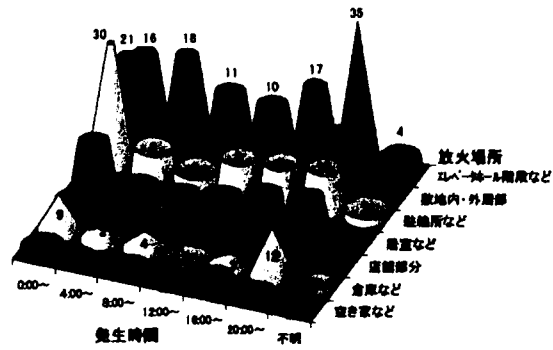
・車両火災、その他火災において、放火場所を街灯が照らしているかをみると、57%が街灯のない所で発生し39%が街灯の照らしている所で発生している。

夜間の明るさと放火の状況(車両火災、その他火災)



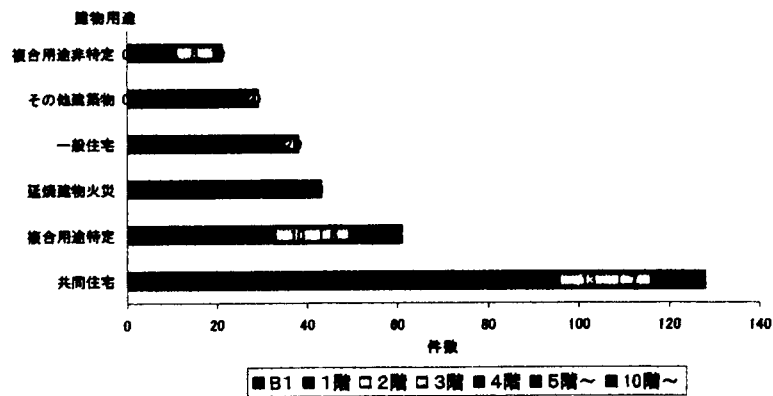
・車両火災、その他火災において、放火場所の夜間の明るさを見ると、暗い場所での放火は24%と少なく、よく見えない場所で、39%が発生し、明るい所で20%が発生している。全体的にみると、暗い、よく見えない場所で63%が発生しており、街灯の設置等により夜間の監視性を高める必要がある。

建物火災における放火場所と時間



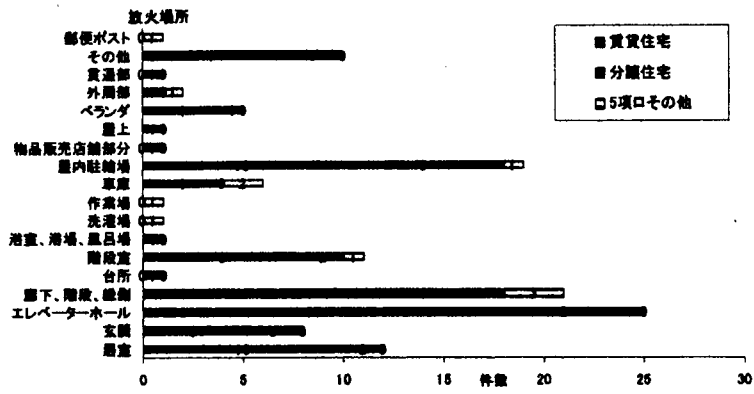
・放火は夜間(20:00~4:00)に多く発生しているが、建物とその敷地内に置いては、車両火災、その他火災に比べて、時間的な差異がなく発生し、昼間においても特に階段、エレベーターホールで発生している。
 ・ただ、敷地内外周部や駐輪場等では、夜間に多く発生している。

主な建物用途と火災発生階



・建物用途別では共同住宅が40%と最も多く、他の用途の建物の2倍以上となっている。出火階別にみると80%以上が1、2階で発生しており、玄関ホールや通路に監視カメラを設置する等、監視性を高める必要がある。

共同住宅の居住形態と放火発生状況



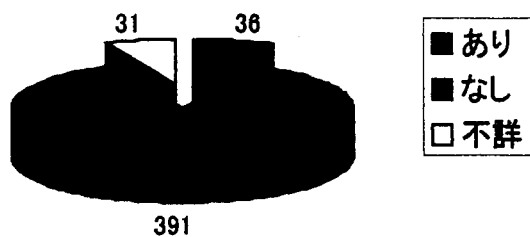
・共同住宅の放火では、賃貸住宅の放火(78件)が分譲の放火(38件)の2倍以上となっている。放火場所としては、エレベーターホール、階段室、屋内駐輪場などの共用部分で100件以上発生している。

建物内の施錠状況(建物と敷地内の火災)



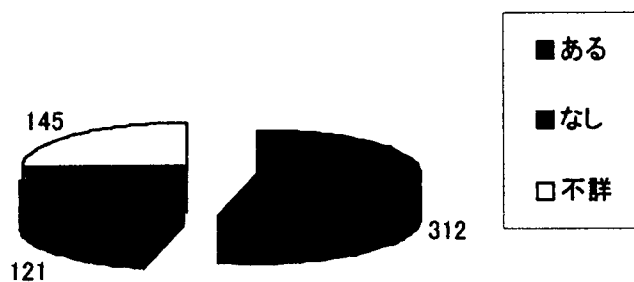
・建物とその敷地内で発生した火災において、敷地内及び建物に施錠がされていたのは全体の20%であるが、建物内の施錠状況は51%になっている。

建物内の防犯カメラの状況(建物と敷地内の火災)



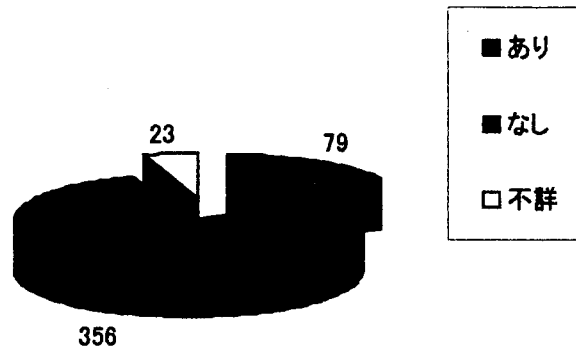
・建物とその敷地内で発生した火災において敷地内に防犯カメラが設置されていたのは、6%である。また、建物内でも8%である。監視性を高めるうえで、玄関ホール、階段、駐輪場に防犯カメラ(ダミーでも効果は期待できる)を設置し、その旨を表示して放火犯に対する警戒心を与えることが大切である。

街灯・門灯・照明灯はあるか(建物と敷地内の火災)



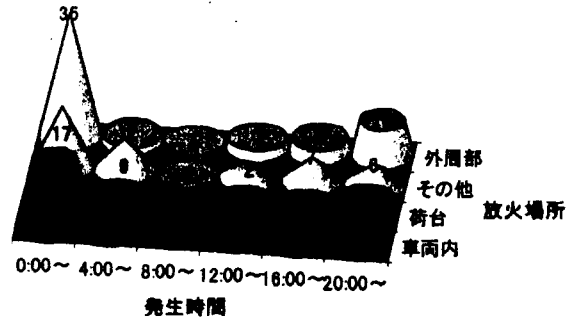
・建物とその敷地内で発生した火災において、街灯・門灯・照明灯の設置状況では、64%が設置されているが、さらに、センサーライト等の設置促進が進むとまちの安全安心につながるもの考えられる。

セキュリティの状況(建物と敷地内の火災)



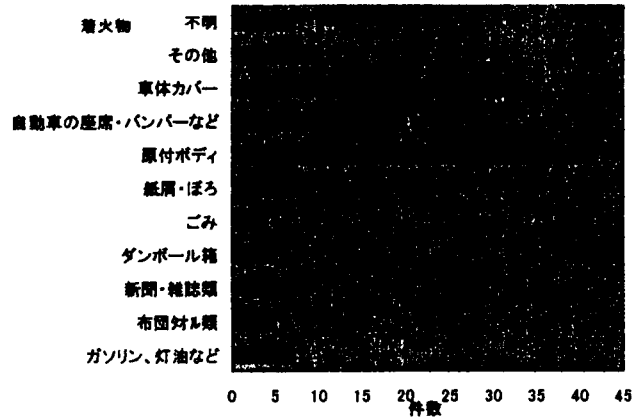
・建物とその敷地内で発生した火災において、セキュリティ(玄関のオートロック、管理人の巡回等)の状況は、セキュリティ対策をとっているのは17%と少なく、セキュリティ対策が必要である。

車両火災の放火場所と時間



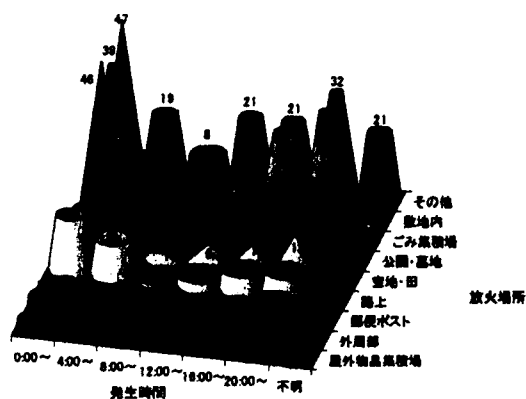
・車両火災の放火場所は、外周部が最も多く、特に車体本体及び車体カバーに放火されるケースが目立つ。車体カバーの不燃化等の措置が必要である。時間帯では夜間の発生率が高く、なかでも0:00~4:00に多く発生している。

車両火災の着火物



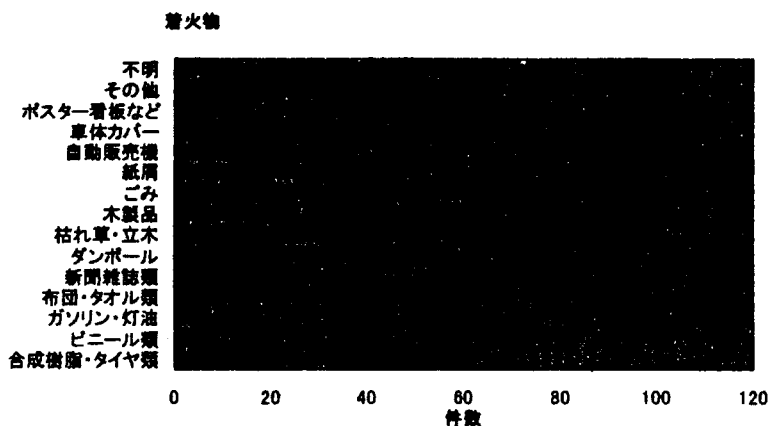
・車両火災の着火物を見ると、原付ボディ、車体カバー、自動車の座席・バンパーなどに 放火されている。

その他火災の放火場所と発生時間



- ・その他火災の放火場所は、ごみ集積場、敷地内、公園、路上が目立つ。特にごみ集積場においては、20:00～4:00の夜間に集中している。ゴミ習性上の区画化やコンテナ収集等ハード面の対策が必要である。
- ・公園は昼間に置いても多く発生している。公園の自然監視性を高めることで、防止できることも考えられる。

その他火災の着火物



- ・その他火災の着火物としては、ごみや枯れ草、合成樹脂・タイヤ類が多い。これらは、路上、ごみ集積場などにさらされていて、放火されたものである。中には、自動販売機のように金銭を盗ることを目的とした放火もある。